

目的 絹和服地（ちりめん）の地直し効果を、実際の着用実験から検討する。

方法 地直しは前報と同様、専門家の手になる湯のし法によった。この地直し処理を施した布地と処理を施していない布地を用いて長着を製作し、これらを実際に着用することによって生じる長着各部の両布の残留ひずみに注目し地直しの効果を知ろうとした。このような着用実験によって認められる地直し処理効果を、地直し処理による布の物性変化から説明しようとした。

結果 着用実験による地直し効果は、つぎのようにまとめられる。（1）長着の着用による布のひずみは、いずれの部位とも着用の経日につれて増大するが、地直し処理を施した布地で構成された長着は、地直し処理を施していないものに比して着用によるひずみ量は布の各部とも概して少なく、長着の型くずれを起しにくい。（2）地直し処理後の布は、布の引張り剛性およびせん断剛性ともに大きくなるが、曲げ剛性は小さくなる。また、とりわけ曲げヒステリシスが小さくなる。これらのことが反映して、地直し処理後の布は着用時の変形を起しにくく、また、和服の着用に際して布は曲げ変形をうける場合が多いので、曲げ変形からの回復も大きいことを考えれば、それだけ着用中に作用する外力に対して布の寸法は安定していると言える。以上のように、地直し処理とは、布の寸法を安定させ、着用による長着の形態変化をできるだけ少なくする処理であると言える。（3）しかし、地直し処理によってせん断ヒステリシスがやや増えるようであるので、せん断変形をうけた際には若干回復し得ない変形が残る。